

10月29日(木曜日)「似善に注意せよ」

【新改訳 2017】

ルカ 12・1、2

「パリサイ人のパン種に気をつけなさい。それは彼らの偽善のことです。おおいかぶさされているもので、現されないものではなく、隠されているもので、知られずに済むものではありません。」

これまで、主イエスが指摘されたパリサイ人たちの偽善のいくつかを学んできました。それは、私たち自身にも容易に当てはまる、人間の肉の心理の現れだからです。

偽善とは、漢字で言えば偽りの善、あるいは善でないのに善であるように繕うことです。ギリシャ語では「ヒュポクリシス」で、演技、芝居、見せかけ、偽善の意味ですが、「内のこと、霊のこと、外のこと、形のことにより替えてごまかす人」という説明もなされています(『ギリシャ語小辞典』)。

私たちはどうでしょうか。他人のこととしてではなく、自分自身のこととして静かにチェックしてみましよう。主は、仮面クリスチャンを喜ばれません。正直に自分の罪を認め、日々、主の

贖罪の恵みの中に生きる者であるように祈りましょう。

～祈り～

主よ。あなたは、私のすべてをご存じでなお、愛してくださっていることを感謝します。あなたの前にも、人々の前にも、正直に歩める者としてください。

【学びのために】。

弱さや無知、失敗は偽善ではありません。「そうではないのに、そうであるように言ったり見せたりすること」「内側は、あるいは、本当は善とは言えないものを持っておきながら、あたかも善を持っているかのように」偽ることが問題なのです。